

2007年6月4日

北千住駅 喫煙場所周囲の受動喫煙曝露に関する報告書

目的:北千住駅東口、西口の喫煙所周囲において受動喫煙が発生している、という指摘に基づき、喫煙所周囲の禁煙区域のける受動喫煙の実態について調査をおこなった。

方法:タバコ煙の濃度は、デジタル粉じん計(柴田科学、LD-3K2)を用いて、喫煙場所およびその周囲の禁煙区域における粉じん濃度の測定をリアルタイムモニタリングをおこなった。質量濃度換算係数は $0.0008(\text{mg}/\text{m}^3)/\text{cpm}$ を用いた。

測定日:2007年5月22日

結果:2頁に東口の喫煙所およびその周囲の禁煙区域におけるタバコ煙濃度の測定結果を、3頁に西口の測定結果を示す。
いずれの測定においても、タバコ煙は明らかに禁煙区域にまで拡散していることが認められた。

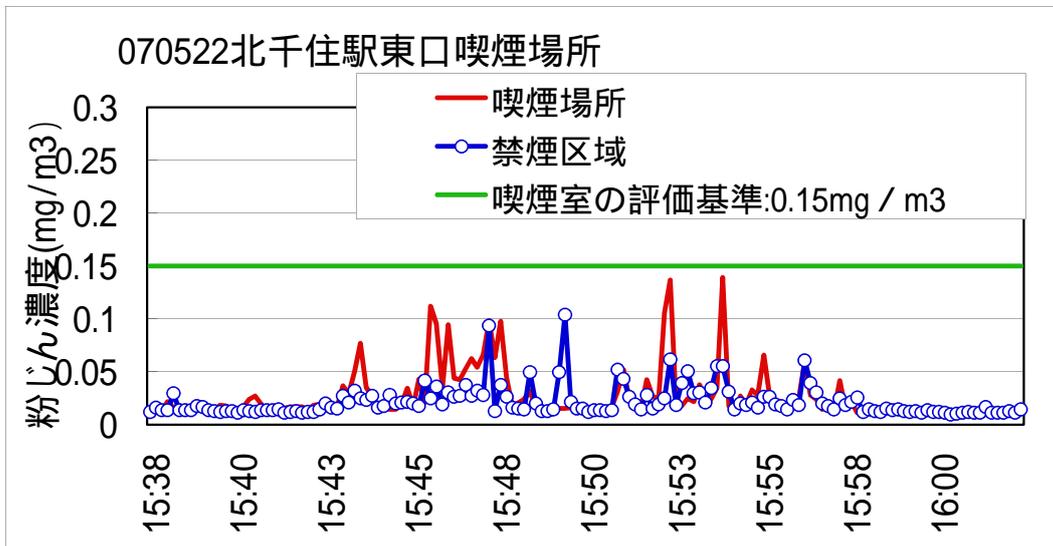
考察:植栽による喫煙場所の区画では、受動喫煙を防止するためには不十分であり、喫煙場所の撤廃を含めた対策が必要であることが認められた。
なお、厚生労働省が「職場における喫煙対策のためのガイドライン」で示している $0.15\text{mg}/\text{m}^3$ は喫煙室内部の環境を評価する際の基準である。
ガイドラインでは「非喫煙場所へのたばこの煙やにおいの流入を防止する」ことが求められている。つまり、禁煙区域においては粉じん濃度が上昇することが問題である。

産業医科大学 産業生態科学研究所 健康開発科学研究室
教授 大和 浩 (自筆署名・捺印)

北千住駅東口 喫煙場所測定



赤い円は喫煙場所の粉じん計を、青い円は禁煙区域の粉じん計を示す。

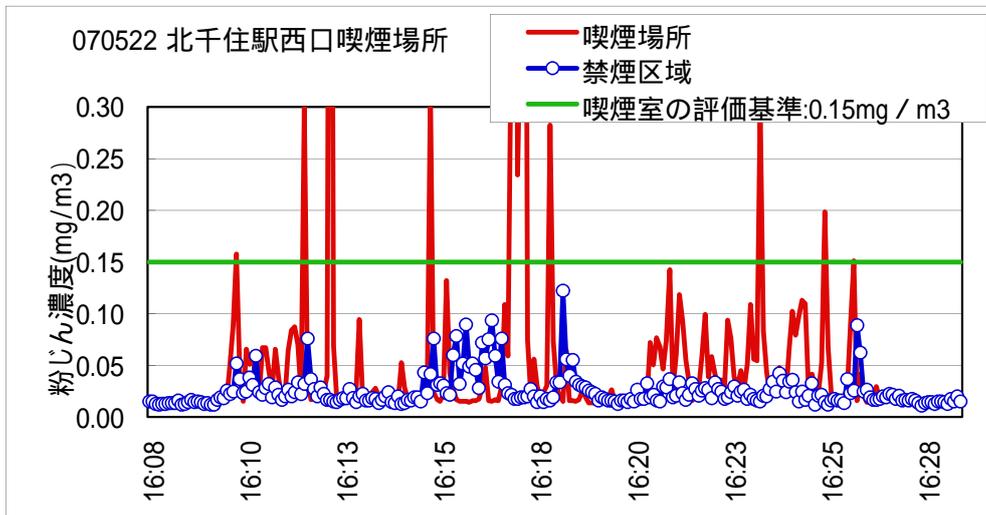


測定終了後の5分間、タバコ煙で汚染されていない空気の測定をおこなった。

北千住駅西口 喫煙場所測定



赤い円は喫煙場所の粉じん計を、青い円は禁煙区域の粉じん計を示す。



測定の前後2分ずつ、タバコ煙で汚染されていない空気の測定をおこなった。